

「…ここは？…確かさっきまで三玖の部屋で勉強を…」

「つて三玖!? なんて俺の上に乗って…」

「ごめんね? フータローが欲しくてもう我慢できないの…」

「だから私のこと以外考えられなくなるまで…いっぱい気持ちよくしてあげる♡」

「…なんだ?…三玖の様子がおかしい…」

「それにカラダも動かないし…三玖から目が離せない…」

「見せてあげるね? 新しい私の姿♡…」



「…!?…その姿は…」

「素敵でしょ?これがフータローを気持ちよくするためのチカラ♡

ほら、おとなしくして?全部搾り取ってあげるから♡…」

しゅっしゅっしゅっ

「! 待てっ!三玖」

「…だめっ♡待たない♡」



「あん♡あつ♡」

どう？フータロー♡気持ちいい？♡」

「ぐっ……うあ……」

（やばいつ……気持ちよすぎて何も考えられなくなるっ……）

「ふふっ♡たまらないって顔してる♡」

…私のカラダ…フータローが一番気持ちよく

なれるように変化させてるから当然だよね♡」

「我慢しても無駄だよ♡どう頑張ったって抗えないんだから♡」

素直じゃないフータローにはお仕置き♡…もっと激しく動いてあげるっ♡」



「そろそろ限界？」

「…いいよ？ほらっ♡」

「全部射精^だしちゃえっ♡」

「やめっ…うああっ!!」

「でっ…射精^でるっ!!」

「あはっ♡きたあっ♡」

「フーターの精子っ♡もっ♡」

「もっといっぱいちょうだいっ♡」

びゅん♡

びゅん♡

びゅん♡

びゅん♡



「…あつ…がつ…」

（気持ちよすぎる…
それにあれだけ射精したのに治まらない…）

「いっぱい射精たね♡」

「でもよかった♡まだ私のナカでガッチガチ♡」

「まだイけるよね？フータロー…私はまだ満足してないよ♡」

ちゅるり♡

どろろ♡

がくがく

がくがく

「この後も…これからも…」

「いっぱい気持ちよくして私の虜にしてあげる♡」

「ずうっと一緒♡…泣き叫んだって絶対に逃がさないから♡…」





















